

# DCNEWS

損保ジャパンDC証券

No.76

## 【外資系企業様向け 第23回『確定拠出年金導入セミナー』を開催いたしました】

当社は、去る2013年2月21日、六本木ヒルズアカデミー（東京・六本木）におきまして、外資系企業様を対象に「確定拠出年金導入セミナー」を開催いたしました。おかげさまで当セミナーも第23回を迎えることができました。セミナー時にご覧いただく日英翻訳資料は、毎回来場者の皆様にご好評をいただいております。

今回のセミナーでは、社外より講師をお招きし確定拠出年金導入のケーススタディや、行動心理の観点による投資理論などについてユニークなお話も交えながらご説明いただいたのに加え、当社職員より確定拠出年金の現状や当社サービスについて紹介させていただきました。

当日は、多くの人事・財務ご担当者様にお集まりいただき、大盛況のうちに幕を閉じました。今後も、ますます皆様のニーズにお応えできるセミナーを開催していく所存です。



## 【厚生年金基金制度の見直しについての議論～厚生年金基金制度に関する専門委員会より～】

AIJ投資顧問による年金消失問題を発端として、昨年11月より、厚生労働省の専門委員会において、厚生年金基金制度のあり方について、議論がされています。

今回は、本専門委員会（厚生年金基金制度に関する専門委員会）の中で、確定拠出年金制度がどのように議論されているのかについて、見ていきたいと思えます。

（詳細は次のURLにてご確認ください。

<http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r98520000008f07.html#shingi30>)

### 1 「厚生年金基金制度の見直しについて（試案）」における確定拠出年金制度

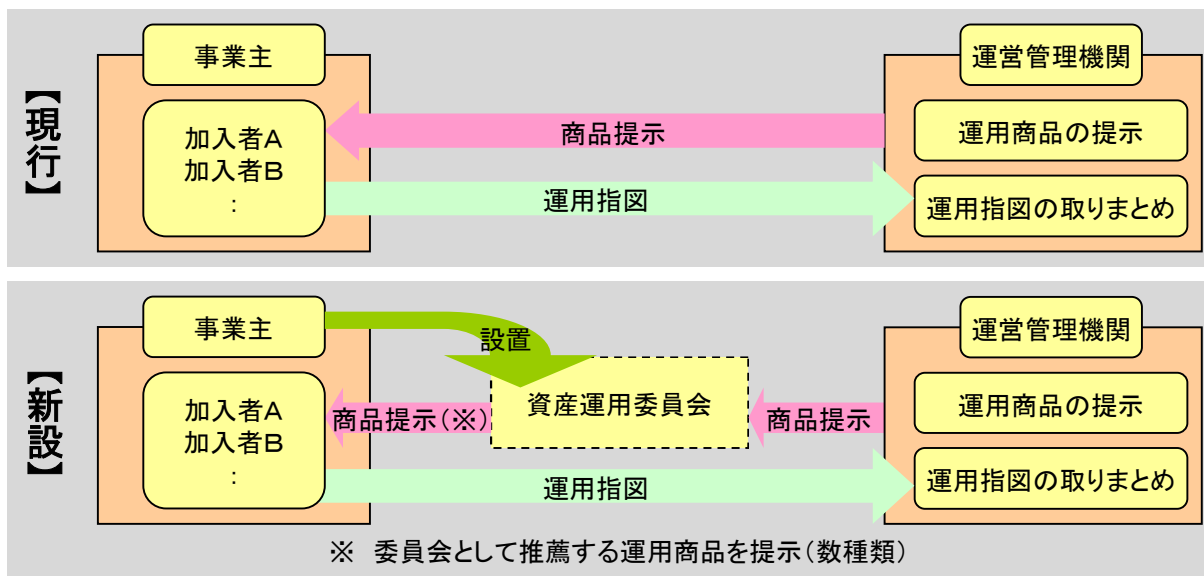
昨年11月開催の第1回委員会において「厚生年金基金制度の見直しについて（試案）」が出されました。その中で、「① 特例解散制度の見直しによる「代行割れ問題」への対応」「② 企業年金の持続可能性を高めるための施策の推進」「③ 代行制度の見直し」を、3つの大きな観点として、今後の方向性と具体策が立てられることとなりました。

上記の「②企業年金の持続可能性を高めるための施策の推進」の中で、企業年金の多様化を進める選択肢の一つとして確定拠出年金制度が触れられています。

### 2 集団運用型DC（仮称）の創設について

企業年金が将来的に持続性を持って存続するために、現行の確定拠出年金の枠組みの中で、できる限り制度運営コストが低く、また、企業の追加負担が少ない制度を創設するといった点から、「集団運用型DC（仮称）の創設」が提案されています。

#### 【集団運用型DC（仮称）のイメージ】



現行の確定拠出年金制度では、事業主は加入者等に投資教育を行う義務を負っています。中小規模の事業主にとってこの負担が大きいと考えられることから、労組や従業員代表、資産運用の有識者で構成された「資産運用委員会」を設置することにより、投資教育の義務を回避させたい、というのが本制度の趣旨と考えられます。

ただし、直近の議論では、「①投資教育を不要とすることと、加入者が運用リスクを負うという現行の確定拠出年金法との整合性の問題」「②委員会の法的な位置付けや設置に向けた実務的な課題」などの理由から、制度創設については慎重な対応を求める意見が多数あがっています。

現在のところ専門委員会は第7回をもって終了し、本意見を踏まえ今国会で厚生年金法改正案が提出される見通しです。今後も引き続き、動向を注視し、皆様にお伝えしていきます。